

令和元年 10 月 31 日
中国電力株式会社

原子力発電所の新規制基準適合性に係る審査会合（第 790 回）
島根原子力発電所 2 号炉に関する指摘内容

<有効性評価：LOCA時注水機能喪失，格納容器バイパス>

- 原子炉再循環ポンプのL2トリップについて，厳しい慣性定数を設定した理由を記載すること。
- 長期TBにおいては2弁で解析し，実際の運転操作手順では6弁としているが，運転操作手順通りに解析を行っていない理由を説明すること。
- 燃料集合体の中心部となるノード5が，最も高い燃料被覆管温度となっていない理由を説明すること。
- 水源の対応について，輪谷貯水槽から低圧原子炉代替注水槽への移送開始時間が，本文と添付資料 2.6.5 の内容に相違ないことを確認すること。
- ブローアウトパネル 1.5 個分で解析を行っていることを詳細に記載するとともに，ブローアウトパネルを 3 個から 2 個に変更した場合のDBAへの影響を定量的に説明すること。
- ブローアウトパネル 2 個が確実に開放することを示すこと。
- ISLOCAの評価について，他系統の漏えいの検知やアクセスルート等の検討結果を記載すること。
- 溢水及び蒸気の流れについて，評価の考え方を記載するとともにイメージ図を用いて詳細に説明すること。
- 添付資料 2.7.2 「別図 8-1 環境評価のイメージ」について，「図 6 溢水状況概要」と同じようにハッチ開口部がわかるように記載すること。
- 敷地境界の実効線量約 3.9mSv について，線量評価の過程及び条件を記載すること。
- 各部屋の検知器の違いにより，ISLOCAの検知手段に影響がない理由を整理し，記載すること。

以上